

令和7年度 愛媛県献血推進画策定検討委員会 議事録[概要]

- 1 会議の名称 令和7年度愛媛県献血推進計画策定検討委員会
- 2 開催日時 令和8年2月19日(木) 10:00~12:00
- 3 開催場所 いよてつ会館 5階 会議室
- 4 出席者
委員(11名): 上田委員、羽藤委員、白方委員、唐木委員、庄野委員、喜田委員、玉井委員、
和田委員、麓委員、向井委員、河野委員(会長)
事務局(5名): 薬務衛生課長、主幹、薬事係
保健所担当者(6名)
県赤十字血液センター担当者(3名)
- 5 議 事
 - (1) 令和7年度献血事業報告について
 - (2) 令和8年度愛媛県献血推進計画について
- 6 議事内容(全部公開)
 - (1) 令和7年度献血事業報告について
事務局及び血液センターから、令和7年12月末現在の献血者数、血液対策事業の実施状況等を説明
 - (2) 令和8年度愛媛県献血推進計画について
事務局から、令和8年度愛媛県献血推進計画(案)を説明後、審議を経て了承

【発言要旨】

【令和7年度事業報告について】

発言者	内容
～事務局及び血液センターから令和7年度事業報告について説明～	
河野委員 (会長)	事務局及び血液センターからの令和7年度の事業報告について、質問あるいは意見等ありませんでしょうか。
玉井委員	資料中の「1 血液必要量と献血実績」について、令和7年度欄には「4～12月の実績」が記載されているのに対して、令和6年度欄は「1年間の実績」となっているため、比較が難しいと思います。同じ指標で記載した方が理解しやすいと思うので、検討をお願いします。 また、「2 種類別献血者数」と「3 輸血用血液製剤供給数」については、実績予想で記載していますが、冬期は献血者数が減少することもあり、適切かどうか判断が難しいと思います。こちらも同様に同じ指標で記載した方が良いのではないかと思います。
河野委員 (会長)	ご意見ありがとうございます。 確かに令和6年度分も「4～12月の実績」で記載すると比較がしやすいと思います。 他にも、可能であれば月ごとの実績を記載して比較するとわかりやすいかもしれませんので、事務局で検討をお願いします。 他にご質問ございませんでしょうか。
羽藤委員	若年層向けリーフレットの配布実績について、配布できていない市町がありますが事情があれば教えていただきたい。
事務局	令和6、7年度は、各市町の血液事業担当部署に対して、リーフレットを作成した旨を担当者レベルで声掛けさせていただき、結果として16市町に「はたちの集い」での配布に協力いただいたところです。更に積極的に協力をお願いする上では、献血担当部署のみではなく、「はたちの集い」を管轄する部署に直接協力をお願いすることも重要ではないかと考えております。
羽藤委員	非常にいいリーフレットなので、ぜひ積極的に取組を進めていただきたいと思います。
河野委員 (会長)	他にご質問ございませんでしょうか。
唐木委員	400mL 献血を推進するというご説明でしたが、200mL 献血は廃止される可能性があるのでしょうか。
血液センター	200mL 献血を廃止する予定はありませんが、先ほどご説明したとおり、200mL 献血由来の血液製剤の使用については新生児オベ等に限定されており、需要があまりないという事情があります。 有効期限などを加味し、今年度、愛媛県においては大街道献血ルームで毎月10本程度の本数を確保する予定となっており、来年度についても同様と考えております。
唐木委員	200mL 献血は献血が初めての高校生にとってやりやすいのではないかと考えています。いきなり400mL 献血よりは、200mL 献血から始めて、献血がどんな感じかを知ってもらうのが良いのではないかと感じています。200mL 献血の有効な活用方法について何か検討いただければと思います。

【令和8年度事業計画（案）及びその他献血推進に関する内容について】

発言者	内容
～事務局から令和8年度事業計画（案）について説明～	
～唐木委員からの事業報告及び来年度事業計画発表～	
～庄野委員からの「大学生の献血に関する知識・関心・行動」に関する研究結果発表～	
河野委員 （会長）	それでは、各委員からお一人ずつご発言をお願いします。
上田委員	<p>庄野委員の発表について、論文等にさせていただいた際には、データを同僚などに共有できればと思います。</p> <p>本日の話を聞いて、献血者が単回で終わるのではなく、複数回来てもらうための取組が重要と感じました。ラブラッドを使用している人は次回予約がすぐできると思いますが、献血時に次の予約を取って帰ってもらうようなやり方が良いのではないかと思います。</p> <p>また、特に若い女性は400mL献血の基準である「体重50kg以上」というのが心理的にもハードルになっていると思います。基準を変えるのは難しいと思いますので、学校での栄養指導や教育の方向から改善していくのがいいのではないかと思います。ただし、実際に体重50kg以上の人が増えたからといって、すぐに献血行動に繋がるのかは確かではありませんので、そこも難しい課題と感じました。</p>
羽藤委員	<p>唐木委員、庄野委員の発表について、血液センターとしても大変参考になりました。</p> <p>唐木委員の発表の中で、リーフレットを直接配りたいという話がありましたが、確かにボランティアの方が直接声がけして配布するというのは、非常に効果的だと思います。ぜひ実現してほしいので、県としてもサポートをしていただくようお願いいたします。</p> <p>庄野委員の発表についてですが、これまで血液センターでは献血ルームに来てくれた人へのアンケートは行っていましたが、献血しない人はそもそも献血ルームに来ないのでアンケートができていない状況でした。今回の発表で、「なぜ献血しないのか」という部分の回答をいただいたような気がしています。今回のアンケート調査では、様々な属性に分けて解析いただいております、非常にいい論文になると感じましたし、日本赤十字社としても今回の調査は大変参考になると思います。調査結果の中で、我々血液センターの周知が足りなかったという部分もありましたので、学生向けセミナーなど、しっかりと周知していきたいと思います。</p> <p>また、献血経験者に関しては、もっと献血バスに来てほしいという意見や、授業中の献血を出席扱いにして欲しいといった意見があったと思います。ここに関しては、教育委員会との兼ね合いもあり、なかなか難しい問題だと感じました。本日の委員会は、県教育委員会の委員は欠席となっておりますが、学生への献血推進に関して非常に重要な立場ですので、県教育委員会からは代理出席でも是非参加をお願いしたいと思います。学生セミナーの開催や授業中の献血の取扱いなど、色々と議論していきたいと思いますので、検討をお願いします。</p>
白方委員	ライオンズクラブでは、各クラブで献血の勉強会を行っています。特に冬場の献血者が足りない時期に献血活動を増やすという取り組みを重点的に行っています。

	<p>す。</p> <p>今後は、災害時に血液が不足した場合、どのような行動をとったらいいのかについて血液センターと協議をしていきたいと考えています。</p> <p>また、青少年育成活動をやっていますので、献血の啓蒙活動と合わせて何かできることがないか、今後取り組んでいきたいと考えています。</p>
唐木委員	<p>庄野委員の話を聞いて、私自身もZ世代であります、本当に時代が変わってきているなと感じました。</p> <p>コスパ・タイパが重視される中で、ボランティアしている側というのは、時代によってだんだん不利になっていくのではないかと、本当に思っています。周りの人たちの意識が向上していけば、私達ボランティアもモチベーションが上がっていくのではないかと感じました。</p>
庄野委員	<p>若い女性はダイエットをしている方がすごく多い印象です。献血基準の「体重 50 k g 以上」が壁になっており、調査の中でも、可能であれば体重の基準を下げたいという意見がありました。</p> <p>また、献血バスが大学に来て、授業を受けることが優先されてしまい、特に看護学科は授業の空き時間があまりなく、献血に協力することができないという状況があります。</p>
喜田委員	<p>高校生の学校内献血について、授業中に実施する場合、その授業を出席扱いにできないため、献血人数の確保が難しいと思います。一方、文化祭などの学校行事に組み込んで学校内献血を実施する場合、生徒たちは自分の役割分担等が優先されてしまい、事前に実施予定であった生徒も当日は時間が取れず献血に来ないことがあります。また、運動部に関しては、献血の影響によるパフォーマンスの低下が気になるようです。</p> <p>他の委員も言われているように、高校生で初めて献血を行い、1回目を経験することが将来の献血者確保に繋がると思います。学校内献血を実施できる体制が整い、実施校が増えるよう教育委員会への働きかけも重要ですが、学校現場は各学校長がまとめているので、校長会などにも働きかけていただきたいと思っています。</p>
玉井委員	<p>事務局からの説明で「10～30 代の若年層」を啓発のターゲットにするという話がありましたが、唐木委員と庄野委員の発表を聞いたときに、「若年層」というのではターゲットが絞り切れていないと感じました。</p> <p>特に庄野委員の発表を聞いたときに、いかにセグメント分けして、ターゲットを絞っていくかが重要だと感じました。ターゲットを絞ると、一部にしか効果が出ないように感じてしまいますが、結果的にそこから広がっていくような、波及効果があるのではないかと改めて感じました。</p>
和田委員	<p>庄野委員の発表を聞いて、今のZ世代がコスパ・タイパを重要視するという現実を改めて認識できました。</p> <p>やはり10代の学生が献血をするというのは、保護者の献血に対する認識が関係あると思います。</p> <p>私自身の経験ですが、子供が保護者の許可なく400m L献血をして帰ってきたとき、勉強や部活に影響はなかったのか、先生の許可は得たのか、安全性や身体への影響はないのかなど、非常に気になりました。ですので、保護者向けに、SNSやCMなどにより安全性などの情報を発信し、積極的に啓発していくことで、保護者に「子供に献血をさせて大丈夫」という認識を持ってもらうことが重要と感じています。</p> <p>また、高校の運動部に献血いただいた話がありましたが、協力いただいた部活動向けのマスコットを作成して献血した学生に配ることで、部活全体で社会貢献をしたという一体感を持ってもらうのも良いのではないかと感じました。</p>

麓委員	<p>若年層の献血者の減少について、改めて認識をさせていただきました。 若年層向けリーフレットの件については、西予市としても協力していきたいと思 います。その他の取組についても、献血の場所確保であるとか、広報など、行政 ができる範囲でサポートさせていただきたいと考えています。</p>
向井委員	<p>町村会は、県内9町で構成されておりますので、特に若年層向けリーフレットの 「はたちの集い」での配布について協力していきたいと考えております。 また、「はたちの集い」に限らず、年間を通して何か協力できることがあれば対応 したいと思います。</p>
河野委員 (会長)	<p>各委員にご発言いただきましたが、それぞれのご意見を聞かれて追加発言や補足 説明はございませんでしょうか。 それでは議題の方に戻りたいと思いますが、令和8年度の愛媛県献血推進計画案 について、皆さんご了承いただけますでしょうか。 (承認) ありがとうございます。 それでは、ご了承いただいたということで、この計画に基づいて来年度、献血活 動を推進して参りたいと思います。 また今ほど、皆さんからいただいた貴重なご意見は、来年度の各種の事業に生か していきたいと思っておりますので、委員の皆様にもご協力の方をお願いいたします。 それでは長時間にわたりまして本当に熱心なご議論ありがとうございました。 これをもちまして、本日議事を終了させていただきます。</p>